

※20160910(土) バイブルスタディ「神の愛」

「イエス・キリストの十字架の死と復活」パート2
＝イエスキリストについての預言と成就＝

1. イエスキリストについての預言と成就

今日はイエスキリストについての預言と、その預言が成就したことについて聖書で書かれていることをみていきましょう。

・創世記3：14、15

このように書かれています。

「神である主は蛇に仰せられた。

『おまえが、こんな事をしたので、おまえは、あらゆる家畜、あらゆる野の獣よりものろわれる。おまえは一生、腹ばいで歩き、ちりを食べなければならぬ。』

わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。

彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。』

この箇所は、蛇がアダムとエバをだまし、神から言われていた善悪を知る知識の木からは実を取って食べてはならないという命令に背かせたことについて神が蛇に対して言っていることです。

・創世記3：1

「さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。』

狡猾というのは、ずる賢いということです。マタイによる福音書10：16では、イエス様がこのように言われています。

「蛇のようにさとく、鳩のようにすなおでありなさい。」と、

つまり、蛇はすごく賢いということです。この賢さをイエス様は持つようにと言われていますが、同時に素直であることも重要だと言っています。

蛇は、その賢い、敏いものですが

狡猾というのは、ずるく悪賢いということ
ですので、蛇そのずる賢さを悪魔に使われて
しまいました。

神は、ある日必ず、悪魔のかしらを打ち砕くものを
人の体を持った末から起こすと約束しています。
また同時にその者は、苦しみを受けることを語って
います。この方がイエス・キリストです。

それでは、旧約におけるイエス・キリストの原型を
みてみましょう。

1. 旧約におけるイエス・キリストの原型

=律法前=

聖書の中では律法以前の事、律法ができてからの
事が記されています。まず律法前において、イエス様の
モデルとして書かれている箇所がいくつかあります。

①小羊→創世記3：21

「神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を
作り、彼らに着せてくださった。」

ここの箇所でも神様の深い愛情を感じます。裸であった
アダムとエバは、善悪を知る木から実を取って食べた時
から裸であることを恥ずかしいと思うようになりました。
そのため、神はアダムとエバに動物から取った皮で衣服を
作り、彼らに着せたのです。その事によって動物の命が
失われたのです。神は、人のために神の小羊の命を取る
という、イエスキリストが十字架で死ぬことの象徴を
この箇所ですべて言っています。

②アベルのささげもの→創世記4：4

「アベルもまた彼の羊の初子の中から、それも
最上のものを持って来た。主はアベルとその
捧げ物とに目を留められた。」

アベルは、神様へのささげものとして、羊の初子の
中から最上の物を捧げました。

この箇所では、アベルの心について語ることもできますが
今回は、アベルが捧げた最上の羊の初子の捧げ物に
目を留めていきます。

これが、イエスキリストのモデルです。

③雄羊→創世記22：1～13)

信仰の父と言われるアブラハムですが、アブラハムは神に全焼のいけにえとして一人息子のイサクを捧げるように言われた箇所です。

この箇所からもアブラハムの信仰を通して語ることは多くできますが、今回は、一人息子イサクを捧げるという行為、この行為は神がイエスキリストを捧げるつまり、十字架上で死ぬことのモデルです。

④過越の小羊（出エジプト12：3～7、13)

出エジプトのこの箇所は、イスラエル人がエジプトから脱出する前にエジプトの王が心を頑なにし、イスラエル人をエジプトから去らせようとしなかったため、エジプトの家畜、人すべての雄、男の初子が死ぬという主の裁きがくだされたのですが、その時にその門に羊の血が塗られているところは、主の使いがそれを見分けて、その家の初子は守られるというものです。

その羊がイエスキリストのモデルです。

イエス様が十字架で流された血潮、それには神の守りがあることを意味しています。

イエス様を信じる者は、イエス様の血潮によって命が守られます。

＝律法＝

律法の時代には

⑤罪祭の小羊→レビ4：1～6、21

旧約時代において、もし人が罪を犯したなら、罪のない動物に手を置いて、その罪を告白して動物を殺すならば、人によって、その動物が人の罪を負い死にました。

・ヘブル9：13、17～23

この御言葉は、ある日これらのことを成就する者が現れることを告げています。

・1ペテロ1：19

「・・・きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである。」

・使徒8：32

「・・・彼は、ほふり場に引かれていく羊のように

また、黙々として、毛を刈る者の前に立つ小羊のように口を開かない。」

・ヨハネ1：29

「・・・見よ、世の罪を取り除く神の小羊」

これらの御言葉は、イエス・キリストの神の小羊であることを語っています。

また旧約時代、預言者たちによって、イエス・キリストの誕生、そして、その受ける苦しみについて、預言されています。

(2) イエスキリストの誕生

イエスキリストの誕生について預言、成就した箇所

= 預言 =

・イザヤ7：14

それゆえ、主はみずから一つのしるしをあなた方に与えられる。見よ、乙女がみごもって男の子を生む。その名はインマヌエルとなえられる。

・イザヤ9：1～2、6

しかし、苦しみのあった所に、やみがなくなる。
先にはゼブルンの地とナフタリの地は、はずかしめを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダン川のかなた、異邦人のガリラヤは光栄を受けた。
やみの中を歩んでいた民は、大きな光を見た。
死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が照った。
ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。
ひとりの男の子が、私たちに与えられる。
主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者
力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

・ミカ5：2

ベツレヘム・エフラテよ。
あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが
あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。
その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。

=成就=

・ルカ1：26～38

ところで、その六か月目に、御使いガブリエルが神から遣わされてガリラヤのナザレという町のひとりの処女のところに来た。

この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリヤといった。

御使いは、入って来ると、マリヤに言った。

「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」

しかし、マリヤはこのことばに、ひどくとまどってこれはいったい何のあいさつかと考え込んだ。

すると御使いが言った。

「こわがることはない。

マリヤ。あなたは神から恵みを受けたのです。

ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。

名をイエスとつけなさい。

その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。

また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。

彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。」

そこで、マリヤは御使いに言った。「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知らないのに。」

御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、

いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、

生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。

ご覧なさい。あなたの親類のエリサベツも、あの年になって

男の子を宿しています。不妊の女といわれていた人なのに、

今はもう六か月です。

・マタイ1：18～25

イエス・キリストの誕生は次のようであった。

その母マリヤはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。

夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。

彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ。

恐れなくてあなたの妻マリヤを迎えなさい。

その胎に宿っているものは聖霊によるのです。

マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。

この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」
このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が
成就するためであった。

「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。
その名はインマヌエルと呼ばれる。」
(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)
ヨセフは眠りからさめ、主の使いに命じられたとおりにして、
その妻を迎え入れ、
そして、子どもが生まれるまで彼女を知ることがなく
その子どもの名をイエスとつけた。

・ルカ2：1～20

そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、
皇帝アウグストから出た。
これは、クレニオがシリアの総督であったときの最初の
住民登録であった。
それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町
に向かって行った。
ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘム
というダビデの町へ上って行った。彼は、ダビデの家系
であり血筋でもあったので
身重になっているいなすけの妻マリヤもいっしょに登録
するためであった。
ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、
男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに
寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。
さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら
羊の群れを見守っていた。

すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを
照らしたので、彼らはひどく恐れた。

御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。
今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに
来たのです。

きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主が
お生まれになりました。この方こそ主キリストです。
あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられる
みどりごを見つけます。これが、あなたがたのための
しるしです。」

すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの
天の軍勢が現れて、神を賛美して言った。

「いと高き所に、栄光が、神にあるように。

地の上に、平和が、
御心にかなう人々にあるように。」

御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは

互いに話し合った。「さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見て来よう。」そして急いで行って、マリヤとヨセフと、飼葉おけに寝ておられるみどりごを捜し当てた。それを見たとき、羊飼いたちは、この幼子について告げられたことを知らせた。それを聞いた人たちはみな、羊飼いの話したことに驚いた。しかしマリヤは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

・マタイ2：1～23

イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。

「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」

それを聞いて、ヘロデ王は恐れ惑った。エルサレム中の人も王と同様であった。

そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めてキリストはどこで生まれるのかと問いただした。

彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです。」

『ユダの地、ベツレヘム。

あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。

わたしの民イスラエルを治める支配者が、あなたから出るのだから。』」

そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、彼らから星の出現の時間を突き止めた。

そして、こう言って彼らをベツレヘムに送った。

「行って幼子のことを詳しく調べ、わかったら知らせてもらいたい。私も行って拝むから。」

彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ、東方で見た星が彼らを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上にとどまった。

その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。

そしてその家に入って、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。

それから、夢でヘロデのところへ戻るなという戒めを

受けたので、別の道から自分の国へ帰って行った。

彼らが帰って行ったとき、見よ、主の使いが夢でヨセフに現れて言った。「立って、幼子とその母を連れ、エジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を捜し出して殺そうとしています。」

そこで、ヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに立ちのき、

ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者を通して、「わたしはエジプトから、わたしの子を呼び出した」と言われた事が成就するためであった。

その後、ヘロデは、博士たちにだまされたことがわかると、非常におこって、人をやって、ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男の子をひとり残らず殺させた。その年齢は博士たちから突き止めておいた時間から割り出したのである。

そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。

「ラマで声がする。

泣き、そして嘆き叫ぶ声。

ラケルがその子らのために泣いている。

ラケルは慰められることを拒んだ。

子らがもういないからだ。」

ヘロデが死ぬと、見よ、主の使いが、夢でエジプトにいるヨセフに現れて、言った。

「立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に行きなさい。幼子のいのちをつねらっていた人たちは死にました。」

そこで、彼は立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に入った。

しかし、アケラオが父ヘロデに代わってユダヤを治めていると聞いたので、そこに行くとどまることを恐れた。

そして、夢で戒めを受けたので、ガリラヤ地方に立ちのいた。

そして、ナザレという町に行って住んだ。これは預言者たちを通して「この方はナザレ人と呼ばれる」と言われた事が成就するためであった。

(3) イエス・キリストの苦しみ

= 預言 =

・イザヤ53：1～12

私たちの聞いたことを、だれが信じたか。

主の御腕は、だれに現れたのか。

彼は主の前に若枝のように芽ばえ、

砂漠の地から出る根のように育った。

彼には、私たちが見とれるような姿もなく、

輝きもなく、

私たちが慕うような見ばえもない。
彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、
悲しみの人で病を知っていた。
人が顔をそむけるほどさげすまれ、
私たちも彼を尊ばなかった。
まことに、彼は私たちの病を負い、
私たちの痛みをになった。
だが、私たちは思った。
彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。
しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、
私たちの咎のために砕かれた。
彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、
彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。
私たちはみな、羊のようにさまよい、
おのおの、自分かってな道に向かって行った。
しかし、主は、私たちのすべての咎を
彼に負わせた。
彼は痛めつけられた。
彼は苦しんだが、口を開かない。
ほふり場に引かれて行く羊のように、
毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、
彼は口を開かない。
しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。
彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。
彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、
生ける者の地から絶たれたことを。
彼の墓は悪者どもとともに設けられ、
彼は富む者とともに葬られた。
彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかったが。
しかし、彼を砕いて、痛めることは
主のみこころであった。
もし彼が、自分のいのちを
罪過のためのいけにえとするなら、
彼は末長く、子孫を見ることができ、
主のみこころは彼によって成し遂げられる。
彼は、自分のいのちの
激しい苦しみのあとを見て、満足する。
わたしの正しいしもべは、
その知識によって多くの人を義とし、
彼らの咎を彼がになう。
それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け与え、
彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる。
彼が自分のいのちを死に明け渡し、

そむいた人たちとともに数えられたからである。
彼は多くの人の罪を負い、
そむいた人たちのためにとりなしをする。

・詩篇22：1～8

わが神、わが神。
どうして、私をお見捨てになったのですか。
遠く離れて私をお救いにならないのですか。
私のうめきのことばにも。
わが神。昼、私は呼びます。
しかし、あなたはお答えになりません。
夜も、私は黙っていられません。
けれども、あなたは聖であられ、
イスラエルの賛美を住まいとしておられます。
私たちの先祖は、あなたに信頼しました。
彼らは信頼し、あなたは彼らを助け出されました。
彼らはあなたに叫び、彼らは助け出されました。
彼らはあなたに信頼し、彼らは恥を見ませんでした。
しかし、私は虫けらです。人間ではありません。
人のそしり、民のさげすみです。
私を見る者はみな、私をあざけります。
彼らは口をとがらせ、頭を振ります。
「主に身を任せよ。
彼が助け出したらよい。
彼に救い出させよ。
彼のお気に入りなのだから。」

・詩篇22：16～18

犬どもが私を取り囲み、
悪者どもの群れが、私を取り巻き、
私の手足を引き裂きました。
私は、私の骨を、みな数えることができます。
彼らは私をながめ、私を見ています。
彼らは私の着物を互いに分け合い、
私の一つの着物を、くじ引きにします。

・詩篇31：5

私の霊を御手にゆだねます。
真実の神、主よ。
あなたは私を贖い出してくださいました。

・詩篇34：20

主は、彼の骨をことごとく守り、
その一つさえ、砕かれることはない。

・詩篇35：11

暴虐な証人どもが立ち
私の知らないことを私に問う。

・詩篇41：9

私が信頼し、私のパンを食べた親しい友までが、
私にそむいて、かかとを上げた。

・詩篇109：1～51

私の賛美する神よ。
黙っていないでください。
彼らは邪悪な口と、欺きの口を、私に向けて開き、
偽りの舌をもって、私に語ったからです。
彼らはまた、憎しみのことばで私を取り囲み、
ゆえもなく私と戦いました。
彼らは、私の愛への報いとして私をなじります。
私は祈るばかりです。
彼らは、善にかえて悪を、
私の愛にかえて憎しみを、私に報いました。

・詩篇129：3

耕す者は私の背に鋤をあて、長いあぜを作った。」

・ダニエル9：26～27

その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には
何も残らない。やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。
その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、
荒廃が定められている。
彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、
いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が
翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上に
ふりかかる。」

＝成就＝

・ヨハネ19：1～37

そこで、ピラトはイエスを捕らえて、むち打ちにした。
また、兵士たちは、いばらで冠を編んで、イエスの頭にかぶらせ、
紫色の着物を着せた。
彼らは、イエスに近寄っては、「ユダヤ人の王さま。ばんざい」

と言い、またイエスの顔を平手で打った。

ピラトは、もう一度外に出て来て、彼らに言った。

「よく聞きなさい。あなたがたのところにあの人を連れ出して来ます。あの人に何の罪も見られないということをあなたがたに知らせるためです。」

それでイエスは、いばらの冠と紫色の着物を着けて、出て来られた。するとピラトは彼らに「さあ、この人です」と言った。

祭司長たちや役人たちはイエスを見ると、激しく叫んで、「十字架につける。十字架につける」と言った。

ピラトは彼らに言った。「あなたがたがこの人を引き取り、十字架につけなさい。私はこの人には罪を認めません。」ユダヤ人たちは彼に答えた。「私たちには律法があります。この人は自分を神の子としたのですから、律法によれば、死に当たります。」

ピラトは、このことばを聞くと、ますます恐れた。

そして、また官邸に入って、イエスに言った。

「あなたはどこの人ですか。」しかし、イエスは彼に何の答えもされなかった。

そこで、ピラトはイエスに言った。「あなたは私に話さないのですか。私にはあなたを釈放する権威があり、また十字架につける権威があることを、知らないのですか。」

イエスは答えられた。「もしそれが上から与えられているのでなかったら、あなたにはわたしに対して何の権威もありません。ですから、わたしをあなたに渡した者に、もっと大きい罪があるのです。」

こういうわけで、ピラトはイエスを釈放しようと努力した。しかし、ユダヤ人たちは激しく叫んで言った。「もしこの人を釈放するなら、あなたはカイザルの味方ではありません。自分を王だとする者はすべて、カイザルにそむくのです。」そこでピラトは、これらのことばを聞いたとき、イエスを外に引き出し、敷石(ヘブル語ではガバタ)と呼ばれる場所で、裁判の席に着いた。

その日は過越の備え日で、時は第六時ごろであった。

ピラトはユダヤ人たちに言った。「さあ、あなたがたの王です。」

彼らは激しく叫んだ。「除け。除け。十字架につける。」

ピラトは彼らに言った。「あなたがたの王を私が十字架につけるのですか。」祭司長たちは答えた。「カイザルのほかに、私たちに王はありません。」

そこでピラトは、そのとき、イエスを、十字架につけるため彼らに引き渡した。

彼らはイエスを受け取った。そして、イエスはご自分で十字架を負って、「どくるの地」という場所(ヘブル語で

ゴルゴタと言われる)に出て行かれた。

彼らはそこでイエスを十字架につけた。イエスといっしょに、ほかのふたりの者をそれぞれ両側に、イエスを真ん中にしてであった。

ピラトは罪状書きも書いて、十字架の上に掲げた。

それには「ユダヤ人の王ナザレ人イエス」と書いてあった。

それで、大ぜいのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。イエスが十字架につけられた場所は都に近かったからである。

またそれはヘブル語、ラテン語、ギリシヤ語で書いてあった。

そこで、ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、「ユダヤ人の王、と書かないで、彼はユダヤ人の王と自称した、と書いてください」と言った。

ピラトは答えた。「私の書いたことは私が書いたのです。」

さて、兵士たちは、イエスを十字架につけると、イエスの着物を取り、ひとりの兵士に一つずつあたるよう四分した。

また下着をも取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目なしのものであった。

そこで彼らは互いに言った。「それは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」それは、「彼らはわたしの着物を分け合い、わたしの下着のためにくじを引いた」という聖書が成就するためであった。

兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。

イエスは、母と、そばに立っている愛する弟子とを見て、母に「女の方。そこに、あなたの息子がいます」と言われた。

それからその弟子に「そこに、あなたの母がいます」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分の家に引き取った。

この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って聖書が成就するために、「わたしは渇く」と言われた。

そこには酸いぶどう酒のいっぱい入った入れ物が置いてあった。

そこで彼らは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソブの枝につけてそれをイエスの口もとに差し出した。

イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した」と言われた。そして、頭をたれて、霊をお渡しになった。

その日は備え日であったため、ユダヤ人たちは安息日(その安息日は大いなる日であったので)、死体を十字架の上に残しておかないように、すねを折ってそれを取りのける処置をピラトに願った。

それで、兵士たちが来て、イエスといっしょに十字架につけられた第一の者と、もうひとりの者とのすねを折った。しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、そのすねを折らなかった。

しかし、兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出て来た。

それを目撃した者があかしをしているのである。

そのあかしは真実である。

その人が、あなたがたにも信じさせるために、真実を話すということ

をよく知っているのである。

この事が起こったのは、「彼の骨は一つも砕かれない」

という聖書のことばが成就するためであった。

また聖書の別のところには、「彼らは自分たちが突き刺した方を見る」と言われているからである。

・ルカ22：63～65

さて、イエスの監視人どもは、イエスをからかい、むちでたたいた。

そして目隠しをして、「言い当ててみる。今たたいたのはだれか」と聞いたりした。

また、そのほかさまざまな悪口をイエスに浴びせた。

・マルコ15：33～41

さて、十二時になったとき、全地が暗くなって、午後三時まで続いた。

そして、三時に、イエスは大声で、

「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」と叫ばれた。

それは訳すと「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

そばに立っていた幾人かが、これを聞いて、

「そら、エリヤを呼んでいる」

と言った。

すると、ひとりが走って行って、海綿に酸いぶどう酒を含ませ、それを葦の棒につけて、イエスに飲ませようとしながら言った。

「エリヤがやって来て、

彼を降ろすかどうか、私たちは見ることにしよう。」

それから、イエスは大声をあげて息を引き取られた。

神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。

イエスの正面に立っていた百人隊長は、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、

「この方はまことに神の子であった」と言った。

また、遠くのほうから見ていた女たちもいた。その中にマグダラのマリヤと、小ヤコブとヨセの母マリヤと、またサロメもいた。

イエスがガリラヤにおられたとき、いつもつき従って仕えていた女たちである。このほかにも、イエスといっしょにエルサレムに上って来た女たちがたくさんいた。

・マタイ27：54

百人隊長および彼といっしょにイエスの見張りをしていた人々は、地震やいろいろの出来事を見て、非常な恐れを感じ、「この方はまことに神の子であった」と

これらの御言葉を通し、私たちは、イエス・キリストがインマヌエル（神は我々と共にいます）であることがわかります。

イエス・キリストは、女のすえ、人の子として生まれた神であり、その内には、何の罪もありませんでした。

イエス・キリストが神であり、力を持っておられましたが、それをあえて使うことをせず、十字架にかかって死んでくださいました。

なぜなら「イエス・キリストの死」なくして私たち人間は救われないからです。

もし、イエス・キリストが死んだ素振りをしただけであったのなら、そこには何の力もありません。

しかし、イエス・キリストは、実際に死に、私たちの罪をあがなって下さいました。

・ヨハネ19：33～34、38～42

「しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、そのすねを折らなかった。しかし、兵士のうちひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出てきた。」

この箇所の預言が旧約聖書の詩篇34：20に記されています。

「主は、彼の骨をことごとく守り、その一つさえ、砕かれることはない。」

イエス様のすねは折られることはありませんでした。

神様がイエス様の骨をことごとく守られました。

最後にイエス様はわき腹を槍で突き刺され

イエス様の体からは水と血が流れでていきました。

イエス様はイエス様の血が体から出て行くという

実際の出来事を通して、私たち人を血によって救い

そして水によって清めてくださいました。